

平成 23 年 10 月 5 日

静岡森林管理署

静岡大学との研究協力協定に基づく国際森林年記念セミナーの開催について

10月5日に富士山国有林で、イギリス・森林局付属の Westonbirt 植物園のスタッフ 3 名及びインドネシア・ガジャマダ大学の学生 5 名と中国からの留学生 2 名を迎え、静岡大学と共催による「国際森林年記念セミナー」を開催しました。

当署と静岡大学は、平成 21 年 2 月に「学術研究・技術開発等の係わる相互協力協定」を締結しており、試験地の設定や調査等のフィールド提供を行っています。

今回、静岡大学農学部と共同研究等を行っている Westonbirt 植物園とインドネシア・ガジャマダ大学が、10月4～5日にかけて調査や野外実習を行うということで、本イベントを開催したところです。

当日、署長より日本の森林と林業政策及び静岡署の富士山国有林の取組について 20 分間説明を行い、その後、静岡大学農学部の水永教授より富士山のブナについての説明が行われました。

学生らは、資料の写真などを見ながら、説明に聞き入っており、最後に Westonbirt 植物園のスタッフから、「このような機会を設けていただき、感謝します。」とのお礼の言葉がありました。

その後、Westonbirt 植物園のスタッフらとガジャマダ大学の学生らは、研究及び実習のため、それぞれ富士山国有林内のフィールドに移動し、視察を行いました。



国有林等の取組についての説明



記念写真



国有林内に設定された静岡大学の試験地
(ブナの光合成量等を測定) を視察